

平成28年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	信州の地域文化資産を活用した「信州学」学修プログラムの構築 —高大連携を意識した初年次教育—
実施組織 (または対象のカリキュラム)	教育学部（国語教育コース他）
※連携する他学部・機関がある場合は記入	あがたの森文化会館，松本市美術館，開智学校，松本城，松本市内の文化財等（石碑，歌碑等）
実施責任者(所属)	西 一夫（学術研究院教育学系）
取組の目標	本プログラムの目的は、以下の2点を受けて設定される。 1. 長野県教育委員会の「学力向上」政策として高等学校での「信州学」実施 2. 県歌「信濃の国」に対する意識調査の結果分析 【目的】高等教育なかでも初年次教育において地域密着・連携型の教育を実現する一環として本プログラムを位置づける。
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	【フィールド・ワーク】 ①松本文学散歩 1. 4/26:あがたの森文化会館・松本市美術館:あがたの森文化会館での旧制高等学校と信州大学人文学部との関係などの講義と資料視察、松本市美術館での草間彌生の作品鑑賞と上條信山の諸作品の鑑賞と学芸員による解説。（参加学生：12名、教員3名） 2. 10/30:松本城・開智学校:松本城での建築に関する専門知の提供とボランティアによる解説ならびに城内遺構を視察、開智学校では長野県での近代教育の確立についての講義と資料視察。松本の歴史を体験的に知るワークショップ企画・運営。（参加学生：15名、教員4名） ②長野文学散歩 3. 6/24:往生寺文学史跡:中等教育教員免許（国語）の授業科目のオプションルツアーとして企画・運営。往生寺までの史跡と寺内の文学碑（芭蕉・一茶・藤村等）の視察と講義。西長野の文学を体験的に知るワークショップ企画・運営。（参加学生：25名、教員1名） 4. 7/1:犀北館美術品、かるかや山文学絵解き:国語教育コースの行事として企画・運営。犀北館ホテル収蔵の絵画作品・欄間・諸作品を学芸員の解説によって視察。（参加学生：12名、教員：4名） ③軽井沢文学散歩 5. 10/23:堀辰雄文学館・追分周辺:堀辰雄文学館主催の企画展（堀辰雄と古典文学）にあわせた講演会と同時に周辺の文学史跡を見学。関係資料（長野県高校文芸部作成の資料を増刷）に基づく館職員の解説。（一般参加者：40名、学生9名）

2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(そう評価する理由) 1. 平成 29 年度の教養ゼミ実施に向けての問題点を洗い出し、改善を図った。 2. 複数地区（松本・長野・軽井沢）での試行的開催において一定の参加者があり、終了時のアンケートにおいてもおおむね良好な結果を得た。 3. 企画遂行に必要な基本資料（書籍等）を確保できた。また県内高校生が作成した軽井沢地域の文学散歩の葉を増刷し、企画運営で活用した。資料への評価は高いものを得た。 4. 授業での実施に向けての評価観点を整理・体系化できた。 (今後の展望) 1. 平成 29 年度の共通教育での本格実施に移行する。 2. 初年次教育としての役割を明らかにする。 3. 高大接続の企画として、近隣高等学校での「信州学」との連携を推進する。 4. 本授業での資料集の作成を進める。
--	---	---